協 議 会 会 議 記 録

会 議 名 称	第2回 上里町地域公共交通活性化協議会
日 時	平成 29 年 10 月 17 日(火)午前 9 時 00 分～午前 11 時 00 分
開 催 場 所	上里町役場 4階 大会議室
会 長 副 会 長	○高 野 正 道 上里町 副町長 ○川 田 忠 上里町区長会長
出 席 委 員	○小 暮 正 己 上里町老人クラブ連合会副会長(※代理出席) ○大 島 登志彦 高崎経済大学 経済学部教授 ○田 沼 健 一 朝日自動車株式会社 運輸部課長(※代理出席) ○鈴 木 貴 大 株式会社協同バス 代表取締役社長 ○金 子 秀 和 株式会社協同観光バス労働組合 ○下 山 幸 博 本庄警察署 交通課長(※代理出席) ○神 宮 つぐよ 本庄地区タクシー協議会長 ○西 澤 巧 埼玉県企画財政部交通政策課 主査(※代理出席) ○木 村 良 雄 埼玉県本庄県土整備事務所道路部 道路部長 ○稲 岡 信 行 上里町まち整備課長 ○飯 塚 郁 代 上里町高齢者いきいき課長 ※敬称略・順不同
欠 席 者	○堀 込 明 子 上里町身体障害者福社会長 ○鶴 岡 洋 一般社団法人埼玉県バス協会 専務理事 ○高 原 昭 一般社団法人埼玉県乗用自動車協会 専務理事 ○飯 塚 孝 廣 国土交通省関東運輸局埼玉運輸支局首席運輸企画専門官
傍 聴 者	0 名

<p style="text-align: center;">会 議 資 料</p>	<p>1. 開 会</p> <p>2. 委 任 状 交 付</p> <p>3. あ い さ つ</p> <p>4. 議 事</p> <p>(1)報告事項</p> <p style="padding-left: 40px;">報告事項1 「こむぎっち号」の運行状況及び利用状況について</p> <p style="text-align: right;">資料1</p> <p style="padding-left: 40px;">報告事項2 利用促進のための取組状況について</p> <p style="text-align: right;">資料2</p> <p style="padding-left: 40px;">報告事項3 「こむぎっち号」OD調査の実施について</p> <p style="text-align: right;">資料3</p> <p>(2)協議事項</p> <p style="padding-left: 40px;">協議事項1 停留所の移設及び名称変更について</p> <p style="text-align: right;">資料4</p> <p style="padding-left: 40px;">協議事項2 「こむぎっち号」利便性向上のための改善案について</p> <p style="text-align: right;">資料5</p> <p>(3)その他</p> <p style="padding-left: 40px;">次回の交通協議会について</p> <p>5. 閉 会</p>
<p style="text-align: center;">配 布 資 料</p>	<p>○資料 1:「こむぎっち号」の運行状況及び利用状況について</p> <p>○資料 2:利用促進のための取組状況について</p> <p>○資料 3:平成 29 年度利用者OD調査の実施について</p> <p>○資料 4:停留所の移設及び名称変更について</p> <p>○資料 5:「こむぎっち号」利便性向上のための改善案について</p> <p>○参考資料 1:「こむぎっち号」アンケート調査自由意見抜粋</p> <p>○参考資料 2-1:本庄市公共交通政策</p> <p>○参考資料 2-2:深谷市公共交通政策</p> <p>○参考資料 2-3:美里町公共交通政策</p> <p>○参考資料 2-4:行田市公共交通政策</p>

発 言 者	発 言 内 容 等
事務局 会 長 議 長	<p>資料確認</p> <p>1. 開 会</p> <p>2. あ い さ つ</p> <p>3. 議 事</p> <p>議事に入る。次第では報告1「こむぎっち号」の運行状況及び利用状況について」とあるが、運行事業者の(株)協同バスの鈴木委員が遅れるとのことで、先に報告事項2「利用促進のための取り組み状況について」、報告事項3について事務局に説明を求める。</p>
事務局 議 長	<p>(事務局説明)</p> <p>「こむぎっち号に関するアンケート調査」だが、こちらは本協議会の中で提案があった「利用しない方アンケート」についての結果報告となる。利用していない理由について調査することでこむぎっち号の改良点を掘り起こすために町民の方を対象にアンケート実施した。また、「利用者アンケート」についても昨年に引き続き実施したところである。2つの調査の中で自由意見欄を設けて要望や意見を伺う形を採った。結果については協議事項2の中で協議する際の参考にしていただくため、資料の後方に参考資料として掲載してある。後で事務局に説明願う。報告事項2について委員の意見を受け付ける。</p>
委 員	<p>「利用しない人アンケート」とあるが、210人から結果を得ている。これはどういう抽出方法だったのか。また、「利用者アンケート」は前回のもとは比較できるが、「利用しない人アンケート」に前回のもがないのは何故か。あとは「利用しない人アンケート」についての問いで「利用しない理由」の集計結果があるが、最後の「そもそもバスが運行していることを知らない」という項目のパーセント表示が無いが、何か意図があつてのことなのか。</p>
事務局	<p>利用しない人アンケートの依頼方法、抽出方法に関してまずお応えすると、こちらは上里町民生委員・児童委員協議会を通じて依頼した。依頼対象としてはまず委員本人、そして、担当している一人暮らしの高齢者や一人親家庭等で車等の移動手段が無い方、各委員あたり1人、2人について調査票の配布をお願いした。また、それが回収できない場合にも車等の移動手段を持っていないければ、民生委員本人の家族や近所の方でもいいという条件で調査票の回収を依頼した。その結果、210人から回答を得ることができた。</p>
委 員	<p>総数としてはもっと集めるつもりでいたか？また、今の話だと、アンケートに回答する方は偏っているというか、無作為抽出ではないということに理解していいか。</p>
事務局	<p>その通りである。利用者の多くを占めるのが高齢者ということもあり、民生委員さんを通じて一人暮らしの高齢者の方や一人親家庭の方を中心に抽出させていただいたというのが今回のこの「利用しない人向けアンケート」である。今後もし利用しない方全てにおいてのアンケートが必要ということであれば、協議会の中で決定して実施することは可能であると考え</p>
委 員	<p>「利用しない人アンケート」は去年の分はないのか？</p>
事務局	<p>「利用しない方アンケート」に関しては、平成29年2月から3月に行ったのが初めてのア</p>

	<p>ンケートであるため、こちらが去年の分であり、今年度がまだ未実施ということになる。</p> <p>アンケート集計結果中のパーセンテージ表記に関しては、資料の印刷時に印刷範囲から出てしまったと思われる。正確な数字の記載されている資料が手元に無いため、後で回答させていただきます。</p>
委員長	報告事項2について、他に意見があれば受け付ける。
委員	利用促進の取組についてだが、「バスまちスポット」は停留所から 50 メートル以内とあるが、停留所が必ずしも施設内にあるというわけではないのか。ベンチの設置も要件にあったようだが。
事務局	停留所から 50 メートル以内にある商業施設がバスまちスポットの登録条件となっているが、今回登録を依頼している 10 施設については全て停留所が設置してある施設である。ベンチの設置だけでなく、施設内でトイレ休憩できたり、雨風をしのげるように軒先を使えるといったようなこともバスまちスポットの要件になるため、必ず全ての停留所にベンチを設置しなければいけないというわけではない。また、乗り継ぎのための駐車場・駐輪場の貸し出しや、空気入れを貸出すといったようなことも、施設側から申し出があれば要件に追加し、ステッカーにその旨掲示することができるというもの。
委員	何か掲示板のようなものに「ここがバスまちスポットですよ」と分かるような表示をするのか。
事務局	登録すると県からステッカーを送ってもらえる。県は、A4 サイズのステッカーを施設の入り口に掲示すると同時に、カードサイズのステッカーを停留所に貼って利用者に周知するという方法を推奨している。
委員	埼玉県推奨という話があったが、私は群馬在住なのでよくわからないが、埼玉県でそういう「バスまちスポット」というのはいくつくらいあるものなのか。
事務局	登録施設一覧は手元にあるが、数字で集計したものはないので、後で回答させていただきます。
委員長	他に意見はあるか。
委員	「こむぎっち号でお出かけキャンペーン」の利用が 237 枚あったということだが、このうち 1 人が 2 枚使ったというような、使い方の内訳は出ていないのか。
事務局	ご指摘の通り、どの利用者、もしくはどの家庭が 2 枚使ったか、というようなことは把握していない。
委員	10 ページの「主な利用目的」で「通勤」と回答した方がいる。この人が町外の方か、それとも町内の方か把握していたら教えていただきたい。運行時間帯から推測して町外の方が多いと思うが。
事務局	手元に正確な数字は無いのだが、町外の方が多かったと記憶している。
委員	イオンに勤めている方が大半かと思われる。
事務局	実際、行き先をイオンと答えている方が 3 名ほどいた。

委員長	報告事項2について、他に意見があれば受け付ける。
一同	(意見なし)
委員長	続いて報告事項3の「OD調査の実施について」、事務局の説明を求める。
事務局	<p>・平成 29 年度利用者OD調査の実施について</p> <p>この調査は、利用区間の起点と終点を調査するもので、利用者がどこのバス停から乗って、どこのバス停で降りたのかを調査することで、利用者の意向に沿ったサービスを提供することを目的としている。運行事業者の協同バスとの協定で実施しており、今年度は既に 9 月 25 日から 30 日の 6 日間で実施した。対象ルートは全 3 ルート、4 台。対象者は利用者全員とした。</p> <p>調査結果は可能であれば本日の会議に資料として提示したかったが、集計作業等が終わっていないことから、次回の会議の際に提示したいと考えている。平成 29 年度利用者OD調査の実施についての説明は以上となる。</p>
委員長	報告事項3については事務局から説明があった通り、まだ集計はできていないとのことだが、次回会議にて詳細説明があるとのことなので、意見等もその場で伺うという形よろしいか。
一同	(異議なし)
委員長	それでは報告事項3については以上となる。次に、議題を遡って報告事項1の「こむぎっち号の運行及び利用状況について」報告をお願いしたい。①の「こむぎっち号の運行状況について」は運行事業者である協同バスの鈴木委員にお願いする。
委員	<p>・こむぎっち号の利用状況について</p> <p>平成 28 年度と平成 29 年度の利用者を比較した表を資料に加えた。昨年度比として、各ルート別にも集計している。まずルート全体では前年度比 126%、中央ルートが 139%、北部ルートと南部ルートが 91%となった。中央ルートの伸びの著しさが分かる。</p> <p>月別利用者の前年度比は、4 月は 149%、5 月が 125%、6 月が 121%、7 月が 111%、8 月が 113%、そして直近の 9 月が 149%となった。いずれの月も対前年度比が 2 桁以上上昇している。ただし、南部・北部に関しては 1 割程度利用が落ちてしまっている。</p> <p>各ルートの時間帯(便)別に利用者人数をまとめた結果、中央ルートは平均として 800 を少し下回るところが便全体の平均、すなわち 1 便、4 便、6 便、7 便、8 便は平均より少ない利用率だということが分かる。北部ルートは平均値が 150 人ほど、南部ルートは 190 くらいが平均値である。南部ルートのみ、最初の便と最終便の利用率が高く、中間の便の利用人数が少ないという特異な利用状況である。この結果から、昼間の 2 便・3 便に何らかの手を加えれば利用が増えるのではないかと考えられる。以上でこむぎっち号の利用状況についての報告を終える。</p>
委員長	続いて、事務局からも利用状況の報告願う。
事務局	<p>補足説明させていただく。1 月あたりの平均乗車人数が 8 月と 9 月は初めて 50 人を越えた。特に 9 月に関しては、先ほど説明したこむぎっち号でお出かけキャンペーンの効果等もあってだと考えているが、少しずつ増加しているのを実感している。また、1 便あたりの乗車人数があるが、北部ルートと南部ルートは減少が見られることから、改善が必要であることが浮き彫りになったと考えられる。便別利用者数においては、中央ルートの 2 便の利用者が多い点や、南部ルートの利用者が多い点などは昨年同時期の結果とほぼ同じである。特に北部ルートについては、町内巡回バスから 1 便増加し、駅や中央圏への結節点を増やし、多くの</p>

	<p>利便性を有しているのが北部ルートである。利用者アンケートの中でも、18時以降等の遅い時間の運行を望む声がある中で、この増便した5便の利用者が少ないというのが現在の状況である。今後、支線ルートの改善を行う際には、この結果も参考にしながら進めていく必要があると考える。報告事項1の(2)「こむぎっち号の利用状況」については以上である。</p>
議長	<p>報告の通り、利用状況は昨年の同時期と比較すると少しずつではあるが増加しているとのことである。キャンペーンや自主返納者支援事業等の効果も少しは見られるのかなというところである。この後の報告にもあるが、町としてはこむぎっち号の利用促進のために今後様々な取組を行っていきたいと考えている。</p> <p>報告事項1に対する委員の意見を受け付ける。</p>
委員	<p>今年の9月が昨年の9月と比較して149%増加とのことだが、キャンペーンの効果もあるのだろうと思う。その中で無料券も配布したと思うが、無料券でこむぎっち号を利用した方の人数は把握しているか。</p>
事務局	<p>お試し乗車券の使用実績ということで、延べ237名の方が無料乗車券を利用したとのことである。</p>
委員	<p>前年比を提示していただけたが、1.5倍(149%)というのは通常ちょっと考えられないくらいの伸び幅であるという印象を受ける。利用促進策の中で、特に効果的であった政策あるいは理由についての分析はしているか。</p>
事務局	<p>利用促進のところでも少し説明したとおり、説明会の実施が一番効果的であったと考えられる。利用者のほとんどが高齢者ということもあり、高齢者の方が集まるふれあいサロンに直接出向いて、詳細な乗り方についての質問や意見を伺えたというのが要因にあると考えている。また、その中で免許証返納について質問され、その後すぐに返納に行き、無料乗車券の申請に来たという事例もある。やはり説明を受けて直接意見を言えたということで乗ってみようという気持ちになれたのではないかと思うので、引き続き他の地域でも説明会を行っていこうと思う。</p>
委員	<p>利用者は確かに伸びていると思うのだが、一方で数値を単純計算していくと、いずれの月も1日40数人から50人程度となる。北部ルートと南部ルートに関しては4人～5人となり、1便あたり1人という計算になる。また、北部・南部ルートは1回の起点から終点までが北部が94分ほど、南部が117分となり、かなり長時間回るダイヤであるのに対し1便1人ということになる。また、平均で1人～2人という利用者のうち、短区間しか乗らない人も当然いる。その他は乗客無しで回るという状況である。利用促進を進めると同時に、効率の良いダイヤに改正したほうが良いのではないかという感想を持った。</p>
事務局	<p>南部ルートと北部ルート、いわゆる支線についてだが、利用の改善策が必要でないかという意見だが、参考に「こむぎっち号に関するアンケート結果」を見ていただきたい。特に「利用しない方アンケート」だが、こむぎっち号を利用していない理由について2つまで回答できる項目を設けた。この中で、特に割合の多いものを見ると、「車・バイク・自転車等での移動のほうが便利だから」と「利用したい時間帯にバスが無い」、「家の近くにバス停が無い」、「目的地まで時間がかかるから」という順で意見があった。「利用したい時間帯にバスが無い」と「目的地まで時間がかかる」というような意見も多数いただいております。まさにご指摘いただいた通りであり、そのような意見を特に「利用しない方」が持っている。事務局としてもそのような状況であるということは認識している。これから改善が必要な点について、協議事項の2ということで後ほどまた提案させていただく。ご意見をいただければと思う。</p>
議長	<p>他に意見があれば受け付ける。</p>

一 同	(意見なし)
議 長	それでは次第の2「協議事項」に移る。はじめに協議事項1「停留所の移設及び名称変更について(案)」を事務局に説明願う。
事務局	(事務局説明)
議 長	ただいまの説明にあったとおり、農村公園については11月19日(日)に「アグリパーク上里」という名称で農協の農産物直売所のほか、レストラン等のオープンを予定している。それに合わせて実施したいと考えている。また、立野東の停留所については既に集会所が取り壊しになっていることから名称を変更するというものである。こちらで承認をいただければ、変更に向け、事務局で届出等の手続きを進めていくものとなっている。委員の皆様から意見があれば受け付ける。
委 員	現在ある「上里 SA 上り」のバス停で降りる方というのはどのくらいいるのか。また、そこで降りる人はどこを目的地とする人なのか。近くにある「上里カンターレ」やその付近の商業施設か。
委 員 (運行事業者)	主に現在は上里カンターレが一番多い。
委 員	アグリパーク上里になることによって利便性が良くなるのか。
委 員	良くなる。
議 長	他に意見があれば受け付ける。
一 同	(意見無し)
議 長	それでは協議事項1「停留所の移設及び名称変更について(案)」の承認の決を採る。承認する委員の方は挙手を願う。
一 同	(全員挙手)
議 長	全員挙手ということで、協議事項1「停留所の移設及び名称変更について(案)」は原案の通り承認された。事務局は今後手続きを進めるように。続いて、協議事項2「こむぎっち号の利便性向上のための改善案について」を事務局から説明願う。
事務局	・経緯 これまで行ってきた調査や利用者の意見・要望などの結果から特に支線ルートである北部及び南部ルートに関するものが多く、平成29年度の事業計画において「地域のニーズに合った公共交通サービスを提供できるよう、必要な改善点の検討を行う。」としている。平成28年3月から運行開始したこむぎっち号だが、運行事業者とは5年1ヶ月の協定を締結し、利用者の足を確保するために努めているところである。今年度は運行開始から2年目に当たる年だが、5年後以降の上里町の公共交通を考え、以下のような運行形態の変更を含めた議論を進めていく必要があると考えている。平成30年9月末をめどとしたのもそのような計画期間を想定したからであり、平成29年度に議論をスタートさせ、来年度中には必要な改善に向けた事業内容を決定する。また31年度から事業を開始するように準備をするのが30年度に実施することになる。そして平成32年度には5年後以降の公共交通サービスとして、何が上里町に一番良いものなのかを検討し、実現に向けた準備をしていくものと考

えている。そこで資料の2「検討事項」について、大きく分けて2つ提案させていただいた。

1つ目は「(1)現行での改善・工夫」ということで、今の運行形態を変えないままできることを実施するというので、すぐにでもできる改善案ということで提案するものである。検討するにあたり、参考資料をつけた。参考資料1は先ほど説明した「こむぎっち号に関するアンケート」と「利用者アンケート調査」の自由意見をまとめたものである。こちらも参考にしながらご協議いただければと思う。

- ・(ア)時刻表のリニューアルについて
 こちらはアンケート調査の中の自由意見を元に、他の公共交通機関との結節を向上するためのダイヤ変更や、時刻表そのものの見やすさを改善するというものである。
- ・(イ)停留所の移設・増設
 ある一定基準を設け、利用頻度がそれ以下の停留所は調査の上移設や統合を行い、ニーズの多い地区等には増設を行うというものである。
- ・(ウ)その他
 回数券やベンチの設置、連携施設との割引制度の導入などを行うもの。以上3点がこむぎっち号のまま行えるリニューアルの範囲だと考えられる。

続いて(2)「運行形態の変更について」だが、こちらも3点提案をさせていただく。

- ・例1「バスのみによる構成」
 バスのみで各路線の増強や変更を行うというものである。これはこむぎっち号の運行はそのまま、ルートの変更やダイヤの変更を行うことで、今よりもっと利便性を向上させることを目的とするものである。また、支線ルートをデマンド型の運行に変えることも考えられることから、近隣の本庄市や深谷市で実施しているものを参考資料として添付している。
- ・例2「こむぎっち号の運行に加え、他の公共交通サービスを提供する」
 アンケートにおいても、タクシーや路線バスでのアクセスを望む声が多くあることから、支線ルートを補う形での導入を検討するものである。こちらについては、美里町がタクシー利用補助事業を、行田市がデマンドタクシー事業を行っている。
- ・例3「現行の継続を基本とし、費用のかからない方向で改善を行う」
 現行のルートやダイヤだからこそ利用できている方や、毎日の利用となると少しでも安い今の運賃がありがたいという意見もあることなどを考慮した改善を行うというもの。

ここまで、現行での改善・工夫と運行形態の検討ということでご提案申し上げたが、これらはいくまで提案である。本日の会議で結論を出すというものでなく、これまで行ってきた調査や利用者の意見・要望を踏まえた上で上里町の公共交通としてよりよいものを町民の方々に提供できるよう、皆様にご協議いただければと思っている。協議事項2についての説明は以上となる。

事務局

事務局から引き続き補足をさせていただく。本日協議事項として提示させていただいた検討事項(1)、(2)と大きく2つに分けさせていただいた。この点についてもう少し補足をさせていただく。(1)だが、現行での改善・工夫ということで、出させていただいた前提ということで、経緯にもありますとおり、町と協同バスとの協定期間が5年1ヶ月となっている。平成33年3月31日まで協定期間がある。あくまで協定期間内においては、現行のバスの台数・体制を維持しながら、工夫をしていくということになる。

まず(1)については、現行の中で継ぎ足しというか、ある程度の修正ができることもあるが、原則としては現在の協定の範囲内で、もしくは多少の加除ができる範囲で何ができるだろうという議論を目的としている。例としては、先ほどの説明にもあったとおり、時刻表の見やすさの向上や、利用者の見込める時間帯へのダイヤ改正等が挙げられる。この点については、原則として「できるものはどんどんやっていきたい」というスタンスで事務局としては考えている。実施するにあたって交通安全上等課題があるもの、またはあまりに時間を要するというので協議上難しいというものもあるが、できるようなものについては意見を反映する形でどんどんやっていきたいというふうに考えているので、この点については次回以降、具体的にこうしていきたい、ああいう改善をしたいというようなものを、準備が整い次第事務局からもどんどん説明させていただく。もちろん委員の皆様からの改善についての要望も提示

	<p>していただきたい。</p> <p>それと比較して(2)の「運行形態の変更」というのはもう少し大きい話になるので、5年間の協定期間というものもあるが、5年間の最後の平成32年は、過去の4年間を振り返り、次の年からはどうしていくか考えなければならない年になる。協定期間5年のうちの4年間での実績が非常に大切になってくる。例1、例2、例3と挙げたように、バスのみの変更なのか、バスに加えてその他の交通機関を組み合わせるか、というような実証的・検討的なものを、2～3年目である今年と来年である程度意見を頂戴して、協定期間4年目となる平成31年度あたりには多少リニューアルした形で運行してみたいと考えている。それを踏まえたくて協定5年目にはそれ以降にどういった形で修正運行していくのか議論をしたい。あくまでこの5年間はバスの運行体系を原則としながら、それに部分修正を加えていくという形で考えると、例1、例2、例3という方法が想定される。まだ2年目で1年間分の実績しかない中ではあるが、ある程度の意見は頂いている。各種調査で見えてきた課題に対して「このよなやり方もあるのではないか」ということについてご意見を頂きたい。</p>
議長	<p>2の検討事項についてだが、(1)の現行での改善と(2)運行形態の変更についてそれぞれ3つの提案が事務局からあった。これらについて委員の皆様は時間の許す限り協議をお願いします。</p>
委員	<p>現行案の改善の工夫に記載されている「停留所の移設」の件だが、この説明だと一定基準以下の停留所は減らして、多いところは増設するという意味に取れる。ふれあいサロンの説明会の際に、「利用したいがバス停が遠いので利用できない」という意見があった。そういった方の近くに移設すればいいのに、利用していないから無くすというのは、目的と逆行しているのではないかと。利用の多いところはむしろ増設の必要はないと思う。</p>
事務局	<p>事務局としては移設・廃止が目的なのではなく、最終的には利用者の方に少しでも便利にこむぎっち号を使ってほしいという目標がある。廃止という場合は、OD調査等で利用者の少ないバス停は把握している。しかしそれが地域としてニーズが無いからなのか、それとも不便だから現在乗っていないのかなどを考慮したうえで検討していく。ただ、バス停はどうしても道路上に設置するという都合上、安全上設置できない箇所もあるので、その点の兼ね合いはあるが、最大限利用者の利便性を向上できるような移設・増設を検討していきたい。</p>
委員	<p>バスのことではないが、せっきくの機会なのでお願いしたいのだが、本庄付近では100台以上のタクシーが運行している。こむぎっち号関連のアンケート調査結果でもタクシー補助を求める声が出ているようだ。実際に近郊では美里町、行田市、東松山方式といろいろあるのでよく考慮していただき、タクシーチケットを配っていただきたい。タクシーチケットというのは使った分だけ役場に請求するものであるから、使わなかったものに対しての支払はない。タクシーチケットを使う方法としてはいわゆる小口から小口。ぜひタクシーチケット利用をこの中に盛り込んでいただければと思う。</p>
議長	<p>運行形態の案の中にもタクシーチケットは入っているので、事務局に補足説明を求める。</p>
事務局	<p>資料にもあるが、利用していない方アンケートの意見で一番多いものが運行ルートに関する16件、ダイヤに関する16件である。当然利用者のあまり乗っていないルート等の状況が反映された結果だと思う。しかし、事務局としても注目しているのが、他の公共交通手段について11件もの意見が出たことである。多いと見るか少ないと見るかは人それぞれだが、目の前に現実にある状況についての意見と、それ以外の、特に今運行していないタクシーに関する意見が11件もあるのはやはり注目に値すると考えている。また、ふれあいサロン等様々な団体からドアトゥードアのより便利なものとしてタクシーというものが認識されているのは事実である。</p> <p>一方で町としては現在、協同バスとの協定の中でバスのみの運行をしている。当然、こむ</p>

	<p>ぎっち号の運行を始める前にタクシーの話が全く出なかったわけではない。やはり一番ネックになってくるのは費用面の問題かと思う。近隣で実施している美里町では利用券を交付するという形での実施をしている。対象は自動車免許を保持していない40歳以上、あるいは自動車を保有していない40歳以上の方、手帳保持者等を対象に24,000円分、1枚500円のチケットを配布しているそうである。それを一度の利用に限り3枚1,500円まで使えるということで、一人合計24,000円分のチケット配布をしているとのこと。実際我々が美里町の利用者の声について担当者に聞いたところ、「1回3枚までしか使えないので、超えた分は結局自己負担になる」という意見もあり、大きな商業施設や病院が町内に無く、近隣の寄居や本庄、上里に行かざるを得ない美里町の事情で、片道1,500円ではとても足りないとのこと。また、往復すれば年間で往復8回しか補助が出ないこととなるため、利用者の方から「多少不便でもいいから定時で動く安価なバスにしてほしい」という意見をいただくとも聞いた。このことから一長一短かと思われる。</p> <p>また、行田市では巡回バスとタクシーを組み合わせて使っている例がある。行田市では特に上限を設けていないが、タクシーメーターで自己負担額が決まるという仕組みを採用している。対象は75歳以上の方、障害者手帳を持っている方が対象で、利用者に制限をつけている。また、指定乗降場所というものが市内各地にあり、自宅～指定乗降場所、指定乗降場所～指定乗降場所、指定乗降場所～自宅といったパターンでのみ利用が可能。もともと公共交通であるバスへの結節という位置づけで運行しているとのことだが、最寄りのバス停で無ければいけないというわけではないので、事実上自宅から目的地までの移動も可能な実態がある。そのような形であるため、年齢等で多少の制限をかけることで市の負担を抑え、タクシーとバスを共存することができていると聞いている。</p>
委員	<p>東松山ではこれとは違った方式のやり方をしている。ぜひ東松山の方式も調べて検討していただきたい。</p>
事務局	<p>事務局で東松山方式は調べたが資料にはしていない。確か高校生以上が対象だったと記憶している。</p>
委員	<p>詳細は覚えていないが、とにかく東松山も役場がやっているものだ。検討してほしい。</p>
事務局	<p>東松山も確かにデマンド型のタクシーをやっている。事務局で調べた中で、行田市の方式と比べて対象年齢の制限が緩く、高校生以上が使えるデマンドタクシーで、自宅から指定乗降場所までという形ということで、行田市のものと同様の方式である。協議会后に再度調査するが、美里町・行田市・東松山市の3団体のものを紹介した。費用面についてもう少し補則すると、現行のこむぎっち号の運行については、総額費用で年間5000万円強である。町の負担額としては、総費用から運賃収入・国庫補助金の数百万円を差し引くと5000万円ほどになる。この残りの5000万円に対して特別交付税措置が8割分交付されるため、残りの2割、約1000万円分を町の予算から支出している。町では少ない予算の中で公共交通を用意する必要があるため、バスにした経緯がある。</p> <p>一方で、タクシーには国の補助金等がないため、全額町の支出となる。行田市の例では人口が上里の2倍～3倍程度の8万強、費用面では上半期で300万円くらいのタクシー補助を出している。年間600万円～800万円と、多くても1000万円行かないような予算額でタクシー補助をしているが、バスはまた別予算である。</p>
委員	<p>行田のタクシー補助事業が取り上げられたので補足するが、上半期で300万円くらいの予算というのは、タクシー補助事業を始めてから最初の2か月間は利用がなかったと聞く。残りの上半期で300万円ということは1か月の市の負担額がだいたい100万円くらいの計算になる。</p> <p>また、デマンドタクシーという風に資料には書いてあるが、ちょっと性質が違うように思う。この行田市の事業を始める前に、市の年間負担額をいくらまでにしよう、というのを協議会</p>

	<p>で決めている。その結果 1200 万円までにすることとし、その予算額の中で補助事業を行うためには要件をどうすればいいかも議論した。そうしないと、東松山のようにすごく便利な方式ではあるが、年間 4000 万円くらいの予算を用意しないと運営できないことになる。費用が跳ね上がってしまって、非常に苦しくなるという状況を聞いていた行田市は制限を強くしたという経緯がある。実際に行田市が取っている予算額は 2400 万円くらいだが、1200 万円を目標に運行している。</p> <p>今現在利用者のほとんどが買い物と病院のためであり、駅に行かれる方はほほいない。利用する方は従前からタクシーを利用していた方がかなり多いというし、特殊なことに、利用されている方の居住地域がかなり限定的になっているともいう。行田というロケーションは、鉄道では高崎線と秩父鉄道線、総合病院は市の北と南に 1 つずつある。大手スーパーは町なかに 10 店舗くらいある。以上、聞いているところの情報共有である。</p>
委員	<p>説明にあった(1)というのはマイナーチェンジということで、(2)がフルモデルチェンジということか。30 年度の 9 月くらいを目途にフルモデルチェンジに向けてどういう風にするかを考えていこうということだが、(1)の「ア・イ・ウ」の中の「ウ」(その他利便性向上の取り組み)の中で回数券と商業施設と連携した割引制度とあるが、資料にあるアンケート調査を見ても運賃に対しての意見は特段出ていない。「高い、安くしてほしい」とか「回数券にして」とか「ICカードを導入して」とか具体的な要望が出ていないのなら、この問題については触れないほうがいいのではないかと。これ以上こむぎっち号に対して何かしら、無料制度とかの特典を出してしまうと、タクシーだとか路線バスだとかとの運賃格差がもっと広がってしまって、公共交通としてのタクシーとかの衰退を促してしまうのではないかと思う。利用しない方アンケートで「運賃が高いから」と答えた人が 3% いる。これは恐らく使い方をわかっていない層なのだと思う。県内のコミュニティバスの動向として、運賃は 100 円からどんどん値上がりしている。</p>
委員	<p>確かに無料というところは減っており、どこでも料金を徴収するようになっている。</p>
委員	<p>実は 100 円での運行は高崎線沿線地域のみ。今ほかの鉄道沿線は 150 円～200 円くらいまで値上がりしている。高崎線沿線も南の方から徐々に 100 円をやめて値上げしようという議論がどんどんされているような時代である。タクシーや路線バスとのバランスを考えなくちゃいけないねという議論の方が大きくなってきているのが最近の流れではないかと思う。</p>
委員	<p>回数券や運賃の話もそうだが、先ほどの利用者層の話でイオンの従業員のの方が利用しているという話があった。駅の売店や利用者の多いバス停の近くにバスや公共交通の案内所があればいい。だが案内所専用に常駐の従業員を雇うのは少し無理があるので、例えばイオンの総合案内所で聞けばバスのことも教えてもらえるだとか、そういった仕組みを作ることが手軽にできるマイナーチェンジではないかと思う。その中で定期はともかく回数券の販売くらいはできるのではないかと。</p> <p>それから先ほどの話であった「運賃が高い」という人は、朝日バスとかそういう民間のバスの値段と混同しているのだと思う。もしくは「昔からバスは高い」という思い込みのある方などかと思う。</p> <p>それから先ほども質問したが、利用しない理由として「時間がかかる」とか「家の近くにバス停がないから」とかは、否定的にみるとある意味言い訳のようである。そもそもバスがどういう風に運行しているかということを知らない人がかなりいるのではないかと。時刻表のリニューアルも必要だが、案内所を作ってもいいのかなと思う。</p> <p>また、ここでバスの案内体制がどうなっているか聞きたい。例えば役場の窓口でバスのことを聞かれたとして答えられているのか、案内できるのかどうかについて教えてほしい。</p>
事務局	<p>現状では案内できる職員等が配置されている場所というのが特にないので、例えば総合案内にいたる女性がバスについて聞かれても正確に答えるのが難しいため、総合政策課に</p>

	<p>連絡を入れ、総合政策課の職員が出向いて説明するという形でバスの案内をするという対応をしている。時刻表の見方というのも先ほど話にあったが、ダイヤの改正はしないままに、バス停留所の名前の変更を承認いただいたので、時刻表の作り直しが必要となる。そこまで大幅に変更することはしないまでも、今言われているような見やすさの向上については、印刷業者と相談してもう少し改善するよう努めていきたい。実際、11月1日には広報が配布されるので、新しい時刻表で再周知を図っていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>現在、第7期介護保険事業計画が来年度に向けて策定の準備をしている。昨年度は一般高齢者と軽度に体が弱っている方、そして在宅で介護を受けている方の2パターンの調査を行った。その中で元気な方であっても外出できない理由として「交通手段がない」という答えが2割ほどあり、元気な方で外出している場合であっても自分で運転していたり、人に乗せてもらうという人が7割近くを占めている状況である。免許返納とか、車の運転が困難になった場合には移動手段についての検討が必要ということで、来期の計画に入れていくことになると思うが、上里町はまさに高齢者人口が25%を超えてきているので、団塊の世代の方が75歳を迎える8年後くらいまでには、こういった政策を具体的に考えていかないといけないように思う。また、在宅で介護を受けている人で、主に介護者がやっていることに関しても、8割近くの方がやはり外出の手助けや買い物・病院の送迎、そして今後不安に思っていることも「今後の交通手段をどうするか」という回答が4分の1にも上った。現状では、こむぎっち号は比較的体が弱い人には使いにくいサービスであるので、次期の6年後以降にはそういった方にも使いやすいような運行形態の検討を、できればなるべく早く具体的に詰めてほしい。要望になってしまうが、デマンドタクシーというものも前向きに検討しながら、個々の要望に対応できるようなサービスの方も作っていただけるといい。</p>
<p>委員</p>	<p>先ほどから出た意見等を踏まえて二点ほど意見がある。まず先ほど委員が発言した介護向けにも使いやすい公共交通をという意見についてだが、例えば福祉有償運送という制度があり、その活用は上里町では福祉部局が総合政策課か分からないが、ぜひ導入を検討していただければと思う。もう一点は費用面についての情報提供ですが、(2)の運行形態の検討については早急に議論する部分ではないのかもしれないが、もし今後参考資料のようなデマンド、あるいはタクシー利用券の補助について1つの方策として検討されるのであれば、市町村の持ち出し分が資料に盛り込まれてもいいのではないかと思った。</p>
<p>事務局</p>	<p>参考資料の新しい交通形態について補足ではあるが、先日その資料を作るにあたって行田市の担当の方に話を伺った。デマンドはタクシーとバスがそれぞれあるかと思うが、本庄市・深谷市で行っているデマンドバスについては事前予約型であるので、その予約を管理するためのシステム導入費と、予約を受けるオペレーターの人件費がかかるのとのことだった。しかし行田市のデマンドタクシーでは予約に係る初期投資費用が一切かからないというのが特徴かと思う。こちらについては聞いた話ではあるが、タクシー事業者がオペレーター役も引き受けており、必要に合わせてタクシーを利用者の元まで動かしていけるというシステムになっていることから、費用面でも抑えられるとのことだった。</p>
<p>委員</p>	<p>いろいろ今デマンドの話等あったが、メリット・デメリットが各市町村の方式それぞれにあると思う。次回にそれも資料としてまとめていただき、上里町にはどの形態が一番合うのか、出せる金額が決まっている分その中でどう運用できるか、各市町村のメリット・デメリットを踏まえて検討するべきかと思う。</p>
<p>事務局</p>	<p>運行形態の検討というところについては、期限として1年間ぐらいの余裕があるということで、日ごろの利用者の方や他市町村の様子の調査と並行して、どういったやり方がいいのかを比較的自由に意見交換ができるようにと、今回参考として近隣4市町の公共交通についてまとめたものを資料に入れてはいるが、この中から選ぶという形式を採るつもりではない。その他の近隣の市町村である本庄市、深谷市、美里町、神川町の公共交通について</p>

	<p>は、それぞれ費用面や抱える課題、利用者からの意見など多少の調査を進めているところである。あまり今回は限定して回答を絞らないように、資料出しを控えめにしている点もある。委員からもメリット・デメリットを明確にというところもあったので、もしかしたら委員から(1)引き続きバスによる構成だが、バスだけでももう少し増強したらどうか、例えばバスの台数を増やして1ルートの所要時間を短くしてはどうかという提案もあるかもしれない。または、現在の台数のまま時刻表だけ改正しようという提案もあるかもしれない。もしくはルート編成を変えるとか、いろいろなあり方が考えられると思う。そういったことについて自由な意見をいただくことで、ある程度方向性が3つくらいの中で定まってくれば、次回それに向けたメリット・デメリット、あるいは費用の試算などについてももう少し具体的に事務局の中で詰めたいて考えている。今回は自由な意見をいただきたいという目的を踏まえて、「やっぱりあの市の方式がいいのではないか」というようなご提案があれば、事務局もやはりそれを踏まえてより詳細に調査し、次回の協議会で詰めたいて考えている。</p>
議長	<p>改善案についての事務局からの提案があったが、時間も大分押してきているので、どんな内容でもいいので検討事項1、検討事項2を踏まえて他に意見があれば伺う。</p>
委員	<p>運転免許証自主返納者支援制度について質問がある。1年間はおむぎっち号の無料乗車券を交付するとのことだが、2年目以降にも保障がない限り、免許返納する気にならないという人が多い。おむぎっち号の現在の方式がいつまで続くか分からないが、とりあえず何らかの保障を謳ってもらわないと自主返納は進まないと思うのだがどうか。</p>
事務局	<p>なかなかこれという回答は難しいところだが、町のコミュニティバスについては現状100円という安価で運行している中で、各種手帳所持者や未就学児は無料にさせてもらっている。公共交通機関は誰でも乗りやすく費用面で下げている中で、今回の運転免許証自主返納者支援事業はあくまで公共交通機関に慣れてもらうための移行期間もしくは公共交通を利用するきっかけになるようにと位置付けているところがある。現状では自主返納された方を生涯無料にするというようなことは考えていない。無料券がなくても100円という安価な設定であることをぜひご理解いただきたい。他市町村での類似の取り組みなど知っている委員の方がいればぜひ情報提供をいただきたいと考えている。協同バスではそういう情報を持っていないか。</p>
委員	<p>確か自主返納しても一切優遇措置のないところもある。そういったところはどういう理由で優遇措置をしていないのかは忘れてしまったので、次回以降の協議会で報告できればしたいと思う。しかし、自主返納に対して優遇措置をとっていないところの方が実は多いという事実もある。</p>
委員	<p>今は9月の敬老月間で、60歳以上の方無料などの取り組みをしているところもある。そういったことで優遇措置なしの補填をしているのかと思う。</p>
議長	<p>そのあたりについて事務局は他の市町村の公共交通についてまとめて、次回以降の協議会で委員からの意見を伺えるように準備するというところでよろしいか。</p>
事務局	<p>了承した。</p>
委員	<p>今免許返納については1年限りという話があったが、永続割引をしている事例を知っている委員の方はこの場で情報提供していただきたい。また、資料の中でデマンドという例が4つほどあるが、公共交通の流れとするとデマンドに向かいつつあるので、何かしら検討していく余地は十分あると思うが、ここに出ているデマンドは本庄と深谷だとバスで、美里と行田がタクシーである。本庄と深谷は乗り合わせを想定しているようだが、タクシーも含めてこれらは定時でないものが多い。定時デマンドもちろんあるが、お客がいなければ運行しない</p>

	<p>というデマンドもある。そのあたりも上里町での検討の余地があると思う。</p>
委員	<p>自主返納者への施策としては、やはり先ほどもあった通り実施している市町村は少ないのかなとは思ふ。しかしいくつか実施している自治体の例を挙げることはできるはずなので、次回にでも提示できたらと思う。</p>
議長	<p>他に意見はあるか。</p>
事務局	<p>議長が先ほど発言した通り、時間も迫ってきたので事務局から仮に3案提案したい。1つはタクシーとバスを組み合わせるような形の行田市方式あるいは東松山市方式を上里町に導入した場合の詳細な試算を事務局として調査する。2つ目はよりバスに近く安価で済む定時型のデマンドを上里町に導入した場合の詳細な試算、3つ目は現行のバスを基本としてタクシー等は使わない方式での再編についての調査として、それぞれの方式について掘り下げておく。次回以降にその結果を提示させていただき、議論の基礎にさせていただきたいと考えるが、各委員の審査を求める。</p>
議長	<p>ただいま事務局から提案された方式で、今後の協議会を進めていきたいということだが、異議はないか。</p>
一同	<p>(異議なし)</p>
議長	<p>それでは決は取らずに、事務局にはよく調査してもらい、次回の協議会で結果報告と結果を踏まえての再提案をしてもらおう。それでは協議事項2に関してはこれで終了させていただく。議事3「その他」について何か意見はあるか。</p>
委員	<p>次回の公共交通会議とあるが、今示された3つの案からいきなり次回の公共交通会議にドンと出されても「あの資料があった方がいい」「こういう資料はないか」と右往左往すると思う。一つ提案だが、例えばタクシー事業者さんと路線バス事業者と学識経験者くらいの少数人数による小委員会を編成して、いろんな資料をドンと持ち寄ってそこで検討を重ねてから公共交通会議にかける方がより議論を深められると思うがいかがか。</p>
議長	<p>小委員会の編成について委員から提案があったが、事務局として懸念等あるか。</p>
事務局	<p>事務局としても、やはり自分たちが集めたものが本当に十分かという懸念はあるので、委員の目を通しての議論はぜひお願いしたい。</p>
議長	<p>では小委員会の運営に関しては事務局と各委員で進めていくよう願う。その他に意見はあるか。</p>
一同	<p>(意見なし)</p>
事務局	<p>では事務局から次回の公共交通会議について連絡させていただく。今委員から提案のあった小委員会を開催させていただきたいが、こちらはなるべく早いうちにとと思うが、小委員会を経たうえで次回の公共交通会議の開催を提案させていただきたい。できれば年度内の1月中旬から2月中旬くらいに開きたいと事務局で考えているが、一方で協議会にかけるまでの議論が小委員会の方で詰まるかどうかの一つ課題としてある。事務局としても努力するので、できれば2月中旬くらいまでに次回の公共交通会議を開催させていただきたいと思う。詳細の日程はまたのちに調整のうえ、提案させていただきたい。</p> <p>(閉会)</p>

以上